

澄ーディングニュース 23・10月号

先日行われた国際福祉機器展にたくさんのお客様にご来場頂き、誠に有難う御座いました。大変嬉しく思います。

今年で13回目の出展となりましたが、毎年来場される車椅子をご利用の方が御三方いらっしゃいます。

一人は男性の方でとにかく不動産に興味をお持ちの方

一人は男性の方で電車のNゲージの模型が趣味の方

一人は女性の方で電動車椅子に乗りヘルパーさんを伴い来場されます。3名共もはやお客様というより、アドバイザースタッフのようにブースの賑いに協力して頂いております。

その女性の方のヘルパーさんはミャンマー出身です。当社では日頃「**手すりを1本取り付けるごとに、ワクチンを1本寄付する**」という活動を行っています。その支援先の国の一つがミャンマーなので、どこか近い感じがしました。

そして

「なぜ日本にきて働こうと思いましたが?」と聞くと

「**日本への憧れがあった!**」と答えられました。

そして

「その日本は、どうだったか？」と聞くと

「憧れ通りの国で、来てよかった！」と答えました。

日本に来て3年たつそうです、23歳の若者です。

昼間はヘルパーに従事し、夜は飯田橋の鳥料理のお店で働いているとのことでした。

いろいろな思い、いろいろな環境、等あることでの話ではあると思いますが、非常に嬉しく思いました。澄建設ではこのような出会いを大切にし、そして心に留め、これからも国際福祉機器展に出展し多くの体に障害をお持ちの方のために、頑張りたいと思いました。

それではまた 来月も

ご用命お待ちしております。